

基本情報						
教科・科目	数学A	・授業で使用するもの ・数学A Standard (東京書籍) ・数学Ⅱ Standard (東京書籍)				
担当者	若林					
評価割合(試験・試験外)	試験：6(60%) 試験外：4(40%)	試験外評価は、単元ごと的小テストと再テスト、授業中や家庭学習の取り組みを評価する。				
年間を通じて教科で培う力	鍛錬(知識及び技能)	順列や組み合わせの場合の数を正しく計算し、様々な事象における確率を求めることができる。 内分・外分の意味が分かる。微分係数や導関数の定義が言える。不等式が表す領域を図示できる。 円の方程式を求めることができる。(不)定積分が求められる。				
	理解(思考力・判断力・表現力等)	場合の数や確率を計算する際に、重複や漏れがないように図示したうえで立式できる。問題によってPとCを使い分けすることができる。図形の交点や軌跡を図示できる。また、それを求めるための連立方程式を立式できる。求める面積の形に合わせて、定積分を立式できる。				
	探究・徹習(主体的に学習に取り組む態度)	数学の学習過程を振り返り、問題が解けなかった原因を見出せるまで諦めずに取り組むことができる。学習した問題の解法や発想を応用して別の問題に適用できる。				
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4	6	集合と要素の個数 樹形図と場合の数の順列組合せ	・ベン図を利用して、問われている集合を図示できる。 ・ド・モルガンの法則を利用して、複雑な集合の表記を簡単にすることができる。 ・樹形図を使った場合の数を丁寧に漏れなく数えることができる。 ・PやCの基本的な計算ができる。	・集合、部分集合、共通部分、和集合 ・全体集合と補集合 ・ド・モルガンの法則 ・樹形図を使った数え上げ ・順列と組合せの計算	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
5	10	事象と確率 確率の基本的性質	・実際にさいころを投げて確率とは何か考察し、自分の意見が書ける。 ・順列と組合せの計算を利用して簡単な確率を求めることができる。 ・和事象と積事象を理解し、正しく確率を求めることができる。 ・余事象を使って確率を求めることができる。	・確率の基本的性質と計算 ・余事象の計算	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
6	定期試験① 令和7年 6月2日―6月4日					
	14	独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率 2点間の距離 内分点・外分点 直線の方程式	・独立な試行とは何かを理解し、その2つの確率の積を求めることができる。 ・反復試行の確率や条件付き確率を正しく計算できる。 ・2点間の距離を座標平面上のものと捉えて、二平方の定理と結びつけることができる。 ・数直線上に内分と外分の点を正しく記入できる。また、その座標を計算上で求めることができる。 ・傾きや2点を通る、平行や垂直など様々な条件から直線の方程式を求めるために何をすればよいか判断できる。	・独立とは何か、またその計算方法 ・反復試行の確率と条件付き確率の計算 ・内分・外分の作図、座標の求め方 ・様々な条件から直線の方程式を求めるためには？	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
7	定期試験② 令和7年 7月9日―7月11日					
7 9 10	14	円の方程式 円と直線 軌跡とその方程式 不等式の表す領域	・2点間の距離の知識をもとにして、円の方程式が導き出せる。 ・中心や半径、直径などの条件から円の方程式を求めることができる。 ・円と直線の共有点に注目し、その座標や位置関係における関数の変化を理解できる。 ・円と円の共有点の座標を求めることができ、その共有点を通る直線や円をさらに求めることができる。 ・動く点の軌跡や領域が図示できる。 ・不等式について、直線の上側か下側か、円について内部か外部か判断できる。 ・領域について最大・最小を求めることができる。	・円を方程式で表す ・円と直線の関係、接線の方程式 ・2点から任意の比を満たす点の軌跡 ・不等式と直線や不等式と円の領域 ・領域の最大・最小	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
10	定期試験③ 令和7年 10月20日―10月22日					
10 11 12	18	導関数 導関数の計算 関数のグラフと増減	・導関数の定義を理解し、様々な関数の導関数を定義を使って求めることができる。 ・微分とは何かを理解する。 ・微分を使って接線の方程式を求めることができる。 ・微分を使うことによって、関数の増減が把握できることを理解し、グラフの形状を図示できたリイメージできる。 ・関数の極値、極大値、極小値、最大値、最小値を求めることができる。	・平均変化率と導関数の定義 ・導関数の基本的な計算 ・接線の傾きや方程式の求め方 ・導関数の符号と関数の増減 ・関数の極大・極小 ・関数の実数解の個数や最大・最小	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
12	定期試験④ 令和7年 12月10日―12月12日					
1 2 3	16	原始関数 定積分 面積	・微分と積分の関係を理解する。 ・不定積分と定積分の性質を理解する。 ・不定積分、定積分をそれぞれを正しく求めることができる。 ・積分によってなぜ面積を求めることができるのか理解する。 ・積分を使って曲線や直線で囲まれた面積を正しく求めることができる。	・微分と積分の関係 ・不定積分と定積分の計算方法 ・定積分の性質 ・定積分と面積の関係 ・直線、曲線、放物線などで囲まれた部分の面積	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
3	定期試験⑤ 令和8年 3月4日―3月6日					